かるちゃ～ナビ

ザ・見遊(みゅ～)じあむ ……72

与謝野晶子文芸館（堺市）

近代日本を代表する歌人の生涯と作品を展示

近代日本を代表する女性歌人・与謝野晶子（1878～1942）は堺市の和菓子商の娘として生まれました。晶子の活動は短歌にとどまらず、古典研究や女性の自立を求める評論活動、教育や社会活動など、多彩な分野に及んでいます。日露戦争の時、戦地に駆り出された弟への思いを歌った反戦歌「君、死にたまふことなかれ」は有名です。当時、反戦の歌を堂々と公表したことで、「乱臣賊子」と非難されましたが、晶子はこれに屈せず、大正期以降の言論統制や出版統制にも反対し続けました。文芸館では、晶子のヒューマニズムあふれる生涯とその活動を示す直筆資料や出版物等を展示。今日においてもなお幅広い分野で評価されている晶子の文芸活動を紹介しています。同じ建物の中に、晶子の出版物の表紙を飾った、アールヌーボーの代表的な画家・アルフォンス・ミュシャの作品を展示するアルフォンス・ミュシャ館も併設しています。

ＪＲ堺市駅より雨天でも傘なしで行けます

与謝野晶子

ミュージアムメモ

▶所在地／堺市堺区田出井町1-2-200▶交通／JR阪和線・堺市駅下車徒歩５分▶開館時間／９時30分～17時15分▶休館日／月曜日（休日の場合は開館）、休日の翌日（翌日が土・日曜日、休日の場合は開館）、年末年始▶入館料／一般500円、高校生・大学生300円、小学生・中学生100円▶連絡先／電話072-222-5533

大阪の戦跡を歩く 第71歩

現在は平和のモニュメントになっています

火薬製造所跡の煙突

（枚方市）

枚方市の香里団地には戦時中、砲弾を製造する工場がありました。敗戦で工場は閉鎖されましたが、1952年（昭和27年）、朝鮮戦争の特需ブーム乗って、火薬製造会社が旧工場の払い下げを政府に申請しました。これに驚いた地元市民が反対運動を展開。市長、市議会も工場再開反対に起ち上がり、ついに政府は製造所の払い下げを断念しました。1995年、工場跡地に残った煙突が、平和のモニュメントとして保存されることになりました。

このシネマがえいが

「日輪の遺産」

マッカーサーの財宝を日本の復興資金に

第二次世界大戦末期の1945年8月、日本の敗戦が色濃くなって、戦争終結後の日本の処理を決めた連合軍のポツダム宣言受諾をめぐって、日本の上層部が動きます。同時に進行したのが膨大な財宝の隠匿作戦。敗戦後の日本の復興資金となるもので、その財宝とはアメリカのマッカーサー元帥がフイリピン占領時に残した金貨で、その後占領した日本軍が持ち去ったというもの。総額は現在の価値で約200兆円。軍の極秘命令を受けたのが陸軍の真柴少佐、財政と金融のエキスパートの小泉中尉、戦地での実践豊富な望月曹長の3人。

財宝の隠し場所は多摩丘陵の陸軍工廠（こうしょう）の洞くつ。作業に動員されたのは20人の女学生とひとりの引率の教師。全てが秘密裏に仕組まれて、「作業の完了後は、口封じをせよ」という命令。しかし、3人の軍人たちのとった行動は意外なものでした…。映画は、女学生たちの母校の現在の卒業式のシーンから始まり、過去へとプレイバックします。

原作は浅田次郎の同名小説。しかし映画は原作とはストーリを変えています。3人の軍人に、堺雅人、中村獅童、福士誠治。引率教師役にユースケ・サンタマリア。13歳の20人の女学生たちの、祖国を健気な思いで守ろうとする純真な笑顔が印象的です。

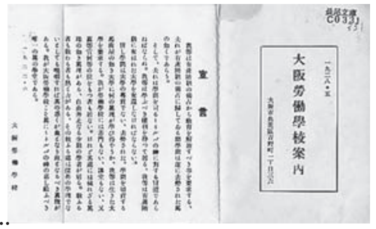
おおさか三国誌 72 ―摂津・河内・和泉―

労働組合評議会と大阪労働学校（大阪市福島区）

闘う労働組合の全国センターと労働学校の発祥地

ＪＲ環状線・野田駅の周辺は、大正時代の末期から昭和の初期にかけて「工場と労働者街に囲まれ、あたかも大阪の社会運動の中心の観を呈していた」（大阪市史・第６巻）と言われています。ここに日本初の闘う労働組合の全国組織・労働組合評議会（評議会）本部の事務所がありました。評議会は1925年（大正14年）5月24日、神戸で創立大会を開き、労働組合運動の全国センターとして、共同印刷争議、日本楽器争議など戦前の労働運動史上に残る闘いを指導してきました。この事務所に押し込まれて逮捕される活動家も続出し、近所では「まるで人買いのたまり場だ」とも噂されていました。

当時の面影を残す長屋（野田駅近く）



大阪労働学校の設立宣言

事務所の近くに1921年（大正10年）、大阪労働学校（現在の関西勤労者教育協会の前身）が開設されました。労働学校は、当時のベストセラー「死線を越えて」の著者であった社会運動家の賀川豊彦が初代校長となり、著作の印税収入を資金にして開校したものです。労働学校では、山本宣治、大内兵衛、小岩井浄、河上丈太郎など、当時の著名な学者や政治家が講師となり、労働者に、経済学、財政学、哲学、労働組合論、産児制限論、ロシア語、英語など多彩な講義を行いました。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

自然は自己の法則を破らない

レオナルド・ダ・ヴィンチ

自然のサイクルは決して乱れることがなく、植物は季節になると芽を出し、花を咲かせ、実をならします。絶対にその法則を乱すことはありません。しかし人間は科学技術という得体の知れない力をもって、自然の摂理を冒し続けています。しかし、自然の報復ほど人間にとって恐ろしいものはありません。

人を相手にせず 天を相手にせよ

西郷　隆盛

「天を相手にして、己を尽くし、人を咎めず、我が誠の足らざるを訪ぬべし」と続きます。とかく仕事には「他人に対する不満」がつきまとうもの。西郷は他人のことをとやかく言うのでなく、自分の仕事が「天の道」（西郷にとっては「人の進むべき道」のこと）に沿っていれば、それでよいではないか、と問いかけています。